

平成 25 年度 第 1 回県北広域振興圏地域運営委員会議 (25/11/15 開催) における意見・要望等に対する対応状況

区分	意見、要望	担当	対応状況	対応内容 (H26 年 5 月末現在)
復興関係	・私は仮設住宅に住んでおり、県営災害公営住宅第 2 団地への入居を希望している。完成は 11 月頃ということで、そこに入る人は 12 月には入れるだろうと期待していた。一日でも早く、年度内には完成してもらいたい。	土木部	実施済	【県建設災害公営住宅第 2 団地】 18 戸 25. 12. 15 内覧会 26. 1. 22 野田村への鍵引渡し (2/1 日から居住開始) 【県建設災害公営住宅第 1 団地】 8 戸 24. 3. 10 内覧会 25. 3. 25 野田村への鍵引渡し (4/1 日から居住開始)
水産関係	・増殖溝のウニの住処 (ブロック) が全部陸に上がってしまって住処がない。少しでも海の中に戻してもらえれば今より水揚げがあると思う。	水産部	取組中	昨年度現地調査を行い、復旧の必要がある 7 か所 (洋野町 6、野田村 1) について国の事業を導入して、昨年度末から工事に着手しているところであり、27 年度完成の予定です。また、岩盤状のブロックについては洋野町で復旧工事に着手し、10 月 6 日までに完成予定です。
観光関係	・中国から日本に来るとき、なかなかビザがとれない。仕事としては会社同士の付き合いがあれば来られるが、個人では旅行としては来られない。旅行会社のツアーで来れば予定通りにしか動けずフリーな時間がない。自由に来られるように対応願いたい。	経営企画部	取組中	数次ビザのさらなる導入拡大など海外からの誘客促進につながる取組を北海道東北地方知事会から国に要請しているところです。
観光関係	・鉄道も 3 時間に 1 本という状況だと、せっかく来ても一ヶ所か二ヶ所で帰ることになってしまう。何時間でこういうコースを巡るといような観光タクシーがあれば、積極的に地域を PR し、タクシー業界についても売り上げが多くなる。交通の不便な地域ならではの「何々巡り何時間コース」といったものがあればいい。	経営企画部	取組中	久慈・二戸地域でそれぞれタクシー協会等において、市内周遊及び広域周遊コースを設定しています。コース例は次のとおりです。 ・久慈駅～北山崎・龍泉洞 (5 時間コース) ・二戸駅～天台寺・浄法寺漆 (2 時間コース) など 県ではこれらのコースをホームページで PR するなどの支援をしているところであり、今後も事業者と連携してコースの拡充や PR 等に努めていきます。
食産業関係	・地元でつくったものを地元の業者が加工して商品にする繋がりをつくり、企業は、生産者との繋がりが見える商品をもっと出してほしいと思う。生産者と加工業者の太いパイプで商品作りができればどんどん地域の繋がりが出てくると思う。	経営企画部、農政部	取組中	県、関係市町村及び団体に構成する「6 次産業化サポート会議」を通じて商品開発への取組支援や地域の農畜産物の生産者と飲食店等とのマッチングの支援などを行っています。 また、平成 25 年度から「北いわて食産業コーディネーター」を配置し、生産者と食産業者の現状、課題、ニーズの把握に努め、局内で定期的に情報共有するなど取り組んでおり、今後も関係部局が一体となって、新商品開発をはじめとした地域の食産業の、より一層の活性化を図っていきます。

区分	意見、要望	担当	対応状況	対応内容 (H26年5月末現在)
工業関係	・縫製工場は女性の職場で主婦が多いので、できれば日中の時間内に勉強させたいが、その為には会社としてその分の給料を払って勉強させなければいけない。そういう部分を支援していただきたい。	経営企画部	取組中	研修会等に参加する従業員人件費の支援は難しいものの、従業員の技能向上を目的とした縫製企業が独自に取り組んでいる研修経費の一部を助成（県北地域産業活性化協議会：H25～）しているところであり、研修の充実が図られるよう取り組んでいきます。
雇用関係	・こちらにはほとんど企業がこない中で、三陸ならではのプロジェクトは必要。就活といっても大した産業もない中、三陸産業振興ということで若者へ地元にはこういう産業があるし、種市だと南部もぐりというような地域産業の見直しや見学を積極的にいき、地元への就職を図ってもらいたい。	経営企画部	取組中	高校生の地域産業への理解を深めるための工場見学会等の取組を支援し、地元定着意識の醸成を図っているほか、県教育委員会との連携による教員研修会（実践的キャリア教育研修会：H25～）を開催するなど、産学官が協働でキャリア教育の充実に取り組む中で、地元定着の拡大を図っていきます。
地域づくり関係	・山形村と久慈の合併10周年が再来年ある。来年の東北B-1グランプリの開催地には手を挙げていないが、再来年の東北B-1グランプリの開催地には手を挙げてみたいという話が出ているので、とても大変なことになると思うが、出ることになったときには協力願いたい。	経営企画部	今後検討	久慈市において北海道東北B-1グランプリの開催が決定した場合は、久慈市等の関係機関と協同し、県がどのような支援ができるか検討します。
地域コミュニティ関係	・コミュニティにおける場、コミュニティ活動やサロン活動などがとても大事。被災地に住んでいる方は隣との連携が必要だと思うので、コミュニティにおける自主的な健康づくりを更に強化していただきたい。	保健福祉環境部	取組中	県では「被災地高齢者ふれあい交流促進事業」をNPO法人岩手県クリエイション協会に委託し、沿岸市町村において「被災地ふれあい運動教室」を開催しています。なお、管内では、昨年度野田村において7回開催され、本年度も開催予定となっています。 振興局では、被災住民のこころのケアとして家庭訪問等を、食生活・栄養指導として栄養教室や個別訪問による栄養相談を実施しています。 また、高齢者支援として、地域包括支援センター職員や地域リハビリテーション支援センター等との情報交換や介護予防サポーターへのフォローアップ研修を実施しています。 今後も被災地における健康づくりの推進を図っていきます。